

## 地区コミュニティとの意見交換の概要について

平成 24 年 8 月 28 日  
薩摩川内市役所

## 【ポイント】

1. 本市次世代エネルギービジョンや行動計画の実効性を担保するため、地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、7月24日(火)から8月3日(金)にかけて、9カ所のコミュニティ協議会と意見交換を行った。
2. しかしながら、ビジョン策定の経緯等を承知していない出席者の十分な理解を得るまでに至らなかった。
3. 他方、高齢者対策を中心に、具体的事業を検討していく上で有益な意見も聴取することができた。

## 1. 経緯

これまで開催された薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会(以下「ビジョン策定委員会」)及び地元作業部会(以下「地元作業部会」)の中で、ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、市内のコミュニティ組織を活用し、地域の具体的なニーズを吸い上げるべきと意見等が出された。

これを踏まえ、去る7月24日(火)から8月3日(金)にかけて、市内の地区コミュニティ協議会(9カ所)の関係者と意見交換を行った。

## 2. 意見交換日程と対象コミュニティ協議会(カッコ内は旧市町村名)

以下の9カ所で実施。いずれの会場も、会長、副会長、役員等(数名から数十名)が出席した。

- (1) 7月24日(火):隈之城地区(川内)
- (2) 7月26日(木):黒木地区(祁答院)
- (3) 7月26日(木):藤本地区(樋脇)
- (4) 7月27日(金):西方地区(川内)
- (5) 7月27日(金):副田地区(入来)
- (6) 7月30日(月):水引地区(川内。古川委員長が出席。)
- (7) 7月31日(火):斧淵地区(東郷)
- (8) 7月31日(火):高来地区(川内)
- (9) 8月 3日(金):子岳地区(下甕)

### 3. 総論

- (1) ビジョン策定委員会の経緯等を承知していない出席者に対し、十分な理解を得るに至らず、一部出席者に対し不快感を与えることとなった。
- (2) また、次世代エネルギーの内容に不明確な部分があり、一部出席者に対し不信感を与えることとなった。
- (3) 他方、一部出席者からは次世代エネルギーを活用したまちづくりに賛同し、今後も意見交換の機会を設けてほしいとの意見も出された。
- (4) 地域での課題に関し、地域のエネルギー源を活用し、観光資源とも絡めつつ、雇用創出や地域振興につなげてほしいとの意見が出された。
- (5) また、農作物の生産プロセスに、代替エネルギー源としての再エネ由来の電気・熱を活用してはどうかとの意見が出された。
- (6) 更に、高齢者対策を念頭に、見守り対策や交通弱者対策の重要性に言及する意見も出された。

### 4. 各論

- (1) 具体的事業に関連する主な意見は以下のとおり(但し、個別具体的地点における設備設置に関する意見は除く。)
  - (ア) 定住対策に関し、市営住宅の家賃が地区別に設定できないのであれば、太陽光発電等を設置した賃貸住宅を設置してはどうか。
  - (イ) コミュニティセンターに太陽光発電設備や、電気自動車を導入してはどうか。
  - (ウ) 地域のニーズに応じ、太陽光、風力、小水力、温泉熱、海洋エネルギー等を活用した地域振興を進めてはどうか。また、これらの電気や熱を地域の観光資源と結び付けるというのはどうか(例: 右エネルギーを活用した、設備等のライトアップ)。
  - (エ) ビジョンや行動計画の中に、地域におけるエネルギーの地産地消の側面を盛り込んでどうか。
  - (オ) 防犯対策も兼ねて、太陽光発電を活用した外灯を設置してはどうか。
  - (カ) 市役所の公用車に関し、防災対策を兼ねて電気自動車を積極導入してはどうか。
  - (キ) 農産物の生産プロセスに再生可能エネルギー由来の電気や熱を活用し、生産コストを削減することはできないか。
  - (ク) 公共施設の建設の際に、太陽光発電設備を備えた防災拠点の整備を進めてはどうか。
  - (ケ) 情報通信技術の活用に関し、高齢者向けに端末を簡素化すれば、対応可能となるのではないか。
- (2) その他
  - (ア) 次世代エネルギーの定義を明確にすべき。
  - (イ) 再生可能エネルギーにも短所(例: コスト面、健康面)があることを念頭に置くべき。

- (ウ)次世代エネルギーの看板を掲げつつ、原子力発電の再稼働につなげたいとの意図が見える。
- (エ)市役所が策定した総合計画との関係や、他の会合で聴取した意見との整合性を整理すべき。
- (オ)スマートコミュニティの実現に向け、光回線の整備を進めるべき。

以上